

スタンダードチャータード PLC

中間経営ステートメント

2011 年 11 月 7 日

(これは、ロンドンにて 2011 年 11 月 2 日付で配信したものを、日本の皆様に向けて抄訳したものです)

スタンダードチャータードは、11 月 2 日付で、2011 年度第 3 四半期に関する中間経営ステートメント(IMS)を発表いたしました。

当行グループ最高経営責任者であるピーター・サンズは、次のように述べています。

「スタンダードチャータードは、2011 年度第 3 四半期も引き続き堅調な業績を収めることができました。これは、広範な商品および地域にわたり収益の成長基調を維持していることによるものです。最近のマクロ経済イベントにもかかわらず、当行が事業拠点を置く市場は力強い成長を続けており、成長に対する信頼感は依然として損なわれていません。当行は引き続きこれらの市場において有利な立場にあり、事業に前向きに取り組んでおります。また、流動性および資本力で差別化を図り、事業戦略を厳格に実行することで強みを発揮しています。」

スタンダードチャータードは、上半期の好業績をベースに、2011 年度第 3 四半期においても引き続き堅調な業績を収めています。なお、以下の解説には英国銀行税の影響は含まれていません。

2011 年度 1 月～9 月の収益は、前年同期比で 1 桁後半の成長率を示しました。

同期間の税引き前利益は 2 桁成長となりました。

同四半期の収益は底堅さを維持して分散化されており、前年同期の水準を大幅に上回っています。主な収益源としては、コンシューマーバンキング部門とトランザクションバンキング事業の収益が 2 桁の成長基調にあります。また、ファイナンシャルマーケット事業の顧客収益は好調に推移し、コーポレートファイナンス事業の収益は前年同期の水準を上回っている一方、プリンシパルファイナンス事業は不透明な市場環境の影響を受けました。

収益は引き続き地域国市場別に広く分散化されています。インドでは更なる減速が見られ、韓国は低迷したままですが、香港とシンガポールの業績は引き続き好調です。当行が事業拠点を置く市場では競争が激化していますが、事業を見直して市場シェアを高める好機が多数存在しています。

同四半期も厳格なコスト管理に努めました。将来の収益成長基調を支えるために両事業部門で増員を実施したことにより、従業員数は予想通り増加しました。過去に引当金を計上した一部の仕組み債の買戻しに伴って上半期に利益が発生しましたが、それを調整すると、同四半期のコストは上半期のランレートと概ね一致しています。

9 ヶ月間の収益の伸びは、引き続きコスト増加率を上回っています。これは、コスト基盤に対する厳格な管理の継続を反映しています。

クレジット・クオリティ(信用の質)は両事業部門とも引き続き良好で、グループ全体の融資減損は上半期のランレートをわずかに下回りました。

バランスシートは、十分に分散化しつつ慎重に管理されており、引き続き競争優位性を支えています。預金量が増加を続ける一方、融資の伸びは厳格に管理され、厳選された商品およびセグメントに重点を置いています。しかしながら、資産・負債項目ともに為替の影響を免れられませんでした。預貸率は低い水準を維持しており、第3四半期末時点で80%を下回っています。

当行グループは、極めて潤沢な資本を保持しています。リスク加重資産(RWA)は上半期以降も厳格に管理され、増加率は1桁台前半にとどまりました。

### コンシューマーバンキング部門

同部門では、同四半期も戦略的なリポジショニングが順調に進展しました。同部門の収益は分散化されており、順調に成長基調をたどっています。収益は上半期のランレートを上回り、前年同期比で2桁の成長率を示しています。

不動産融資事業の収益は、利幅の下げ圧力が続いたことから、上半期のランレートを若干下回りました。これは、複数の市場における競争の激化と金利上昇の影響を反映しています。預金収益は、利鞘が底堅く推移したことから、上半期のランレートを上回りました。

中小企業向け(SME)融資事業は、トレード、為替およびキャッシュマネジメント商品を中心に収益が良好な伸びを示しました。

ウェルスマネジメント事業の収益は引き続き十分に分散化されましたが、投資家心理の冷え込みを受けて、上半期のランレートを下回りました。クレジットカードおよび個人向け融資の収益は、複数の市場で資産を厳選して増やした結果、高成長を遂げました。

コストは上半期のランレートを上回りました。一部は上半期に発生したコスト回収に起因していますが、投資の増加という要因も背景にあります。1月～9月の9ヶ月間については、引き続き収益の伸長がコスト増加率を上回っています。

クレジット・クオリティは、損失指標が上半期と変わらず低水準で推移したことから、良好な水準となっています。減損費用は上半期のランレートを上回り、融資残高の規模および構成と合致しています。また、上半期には多数の融資ポートフォリオの売却を受けて融資減損の戻し入れがあったことも要因です。

## ホールセールバンキング部門

ホールセールバンキング部門では、顧客収益が好調を維持して総収益の 80%以上を占め、前年同期比で 1 桁後半の成長を見せました。キャッシュ、トレードおよび関連為替ヘッジ業務で構成されるコマーシャルバンキング事業は、引き続きホールセールバンキング部門のコア事業であり、重要な部分を占めています。

トランザクションバンキング事業は、順調に成長基調をたどり、同四半期も平均取引量の成長が持続しました。トレード事業では全般的に伸びの鈍化は見られません。利鞘は、キャッシュマネジメント、トレードファイナンスともに同四半期中わずかに拡大しました。収益は上半期のランレートを上回り、前年同期比で 2 桁の成長を示しています。

ファイナンシャルマーケット事業は、トランザクションバンキング事業のフローを要因に顧客収益が引き続き好調でした。取引量は、為替および金利商品を中心に順調な伸びを示し、収益は前年同期の水準を上回っています。

コーポレートファイナンス事業は、引き続き地域国市場と取引規模別に十分に分散化されており、収益は前年同期の水準を上回っています。市場環境により取引の実行に関する不透明感は強まっていますが、取引パイプラインは依然として強固です。

自己取引による収益は、ファイナンシャルマーケット事業、資産負債管理事業 (ALM) とともに上半期のランレートを上回りましたが、プリンシパルファイナンス事業は厳しい市場環境の影響を受け、実現額は上半期の水準を大幅に下回っています。

コストは厳格に管理されており、従業員数の増加ならびに投資フローの影響にもかかわらず、上半期の平均と概ね一致しています。9 ヶ月間で見ると、収益の伸長はコスト増加率を下回っています。

同四半期の融資減損については、期間中に多額の引当金の費用計上はなく、新規で重要な引当金が発生しなかったことから、予想通り低水準にとどまりました。

## グループ関連

バランスシートは、引き続き高い流動性と潤沢な資本を保持しながらも十分に分散されており、保守的なリスクプロファイルを維持しています。当行グループは、ポルトガル・イタリア・アイルランド・ギリシャまたはスペインのソブリン債に対する直接の影響はありません。当行による欧州ソブリン債への直接的な影響はごくわずかな水準です。当行グループの銘柄に対するカウンターパーティーの旺盛な需要に変わりはありません。これは、10 月に実施した 12.5 億ユーロの無担保優先証券発行、および香港での 7.5 億シンガポール・ドルの Tier 2 資本証券発行が順調だったことから明らかです。また、今後数年間のリファイナンス水準は限定的です。このように、当行グループは大変好調な状態にあり、成長市場において有利なポジションを維持しています。

次期業績予測については、12 月上旬の発表を予定しております。

詳細につきましては、以下の担当者へご連絡ください。

Piotr Zajac, Head of Investor Relations +44 (0)20 7885 6454

Ashia Razzaq, Head of Investor Relations, Asia +852 2820 3958

Jonathan Tracey, Head of Media Relations +44 (0)20 7885 7613

日本語でのお問い合わせは下記にて承ります。

スタンダードチャータード銀行

コーポレート・アフェアーズ部

Tel: 03-5511-1245 / Fax: 03-5511-9333

[Ca.Japan@sc.com](mailto:Ca.Japan@sc.com)

-----

本資料に記載の「今後の見通し」については、現時点での予測・意見、もしくは将来予測されるイベントに基づき作成されたもので、その適時性、実現性を保証するものではありません。また、本資料には、予測、目標、見通し、傾向、計画、目標、評価、意見、可能性他、それに類似する表現が使用されていますが、このような表現を含む各種見解・見通しについては、今後の経済動向や市場環境等の変化に対応して当行の業績、計画、目標を変更する場合もあり、その正確性もしくは完全性に関していかなる責任も負わないものとします。また、本資料は、信頼できると思われる過去または現在の情報に基づき作成されていますが、将来における結果を示唆するものないことをご了解ください。更に、当資料中のコメントは作成日現在の当行の判断を示したものであり、将来のイベントや情報により内容に変更がある場合にも、当行はそれに対する責任を負わないものとします。